

被災者の恒久的な住まいの確保

背景

被災者が仮設住宅から自宅や賃貸住宅などの恒久的な住まいに円滑に移り住むことができるよう、地方自治体による支援が必要である。

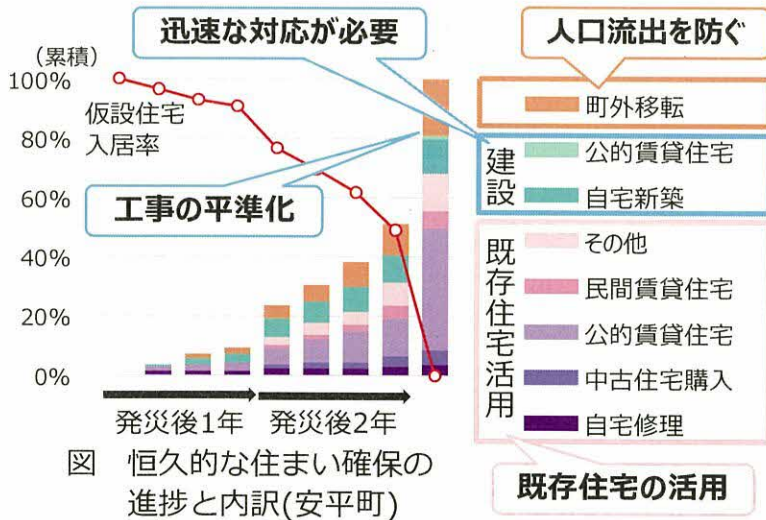


安平町が被災者向けに整備した公的賃貸住宅

成果

1 住まい確保の課題の明確化

仮設住宅からの住み替え過程を整理し、住まい確保のための課題を明確化



2 住まいの確保に向けた「タイムライン」の作成

課題を踏まえ、「いつ」「何を」「どのように」行うかを時系列に整理し提示



意向把握のためのモデル調査票、公的賃貸住宅整備の収支計算ツールなどを提供

期待される効果

成果は、北海道の「住宅の災害対応マニュアル」に反映され、今後の災害において道内市町村が活用

木質バイオマスの高効率な熱利用技術の開発

背景

木質バイオマスの普及促進のため、安価で高品質な乾燥木チップと効率的な熱利用技術の開発が求められている。



開発した技術を道立北の森づくり専門学院に実装

成果

1 木チップの乾燥技術の開発

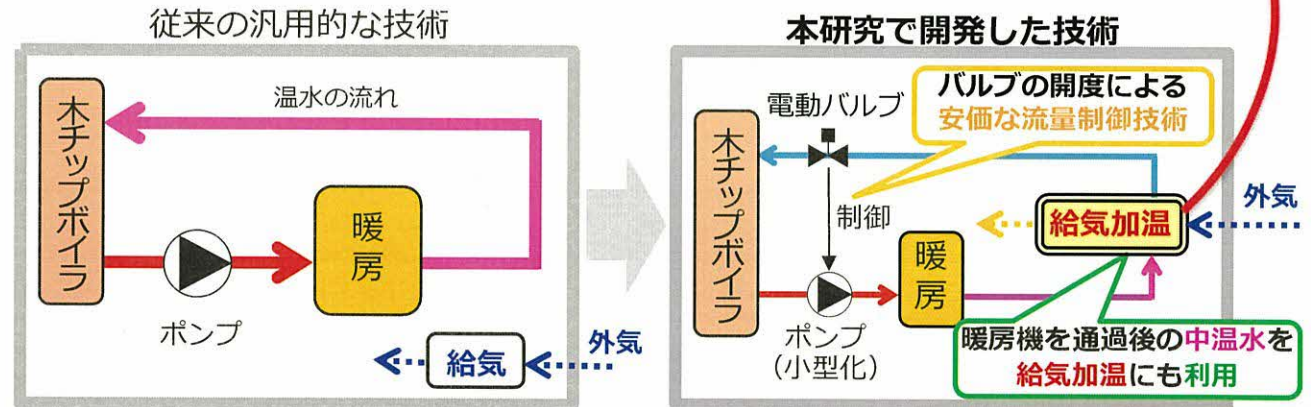


・低コストで高品質な木チップを製造する技術を開発

2 温水暖房システムの搬送動力削減技術の開発



換気予熱装置を開発



・熱を効率的に利用することで温水流量を縮減 (ポンプの小型化)

・開発した流量制御技術によってポンプの運転を最適化

ポンプ搬送動力 50%削減

期待される効果

道内の公共施設や民間事業者において本技術が活用され、木質バイオマスの普及が図られる。